

チャレンジ！！オープンガバナンス 2018 市民／学生応募用紙

地域課題タイトル (注1)	No.	タイトル	自治体名
		多様な主体が交流し、つながりが生まれるような「場づくり」	豊中市
アイデア名(注2) (公開)	もうすぐ高齢者のための部活動！		

(注1) 地域課題タイトルは、COG2018 サイトの中に記載してある応募自治体の地域課題名を記入してください。

(注2) アイデア名は各チームで独自にアイデアにふさわしい名前を付けてください。

1. 応募者情報

チーム名(公開)	マンゴー	
チーム属性(公開)	● 2. 学生によるチーム	
メンバー数(公開)	5名	
代表者情報	氏名(公開)	堺みのり
メンバー情報		大塚双葉、梶本大雅、芝南々帆、巽美寿紀

(注意書き) ※ 必ず応募前にご一読ください。

<応募の際のファイル名と送付先>

1. 応募の際は、ファイル名を COG2018_応募用紙_具体的チーム名_該当自治体名にして、以下まで送付してください。東京大学公共政策大学院の COG2018 サイトにある応募受付欄からもアクセスできます。 admin_padit_cog2018@pp.u-tokyo.ac.jp

<応募内容の公開>

2. アイデア名、チーム名、チーム属性、チームメンバー数、代表者と公開に同意したメンバー氏名、「アイデアの説明」は公開されます。
3. 公開条件について：

「アイデアの説明」でご記入いただく内容は、クリエイティブ・コモンズの CC BY (表示) 4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC (表示—非営利) 4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。

(具体的なライセンスの条件につきましては、<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja>、および、<https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>)
4. 上記の公開は、内容を確認した上で行います。(例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公表いたしません)
5. この応募内容のうち、「自治体との連携」は、非公開です。なお、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アドバイスの段階で相談の上公開することがあります。

<知的所有権等の取扱い>

6. 「アイデアの説明」中に、応募したチームで作成・撮影したものではない文章、写真、図画等を使用する場合、その知的所有権を侵害していないことを確認してください。具体的には、法令に従った引用をするか、知的所有権者の許諾を取得し、その旨を注として記載してください。「自治体との連携」中も同様をお願いします。
7. 「アイデアの説明」中に、人が写りこんでいる写真を使用している場合、使用している写真に写りこんでいる人の肖像権またはプライバシーを侵害していないことを確認してください。

<チームメンバー名簿>

チームメンバーに関する情報を最終ページに記載して提出してください。(2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は本人の同意があるものを除き COG 事務局からは非公開です。詳細は最終ページをご覧ください。)

2. アイデアの説明（公開）

(1) アイデアの内容、(2) アイデアの理由、(3) 実現までの流れ、の三項目に分けて記入してください。

必要に応じて図表を入れていただいて結構です。

(1) アイデアの内容（公開）

アイデアは、課題解決のために、何をやる社会的なサービス（活動）なのか、をわかりやすく示してください。これが将来実現した場合、魅力的で新規性があり、実践したり、活用したくなる、そしてその結果として、課題が解決される、そんなワクワク感のあるアイデアを期待します。2ページ以内でご記入ください。

<応募チームとして解決したい課題>

もうすぐ高齢者が高齢者になっていく不安の解消

<解決アイデアの内容>

コンセプト：歳をとることを楽しもう！

高齢者になるためのコミュニティづくり「老い活」

高齢者になった時、仕事を退職したとき、あなたはなにをしますか？

婚活、終活といったワードが生まれ、自分が次の世代になった時に準備を始める人が増加しています。

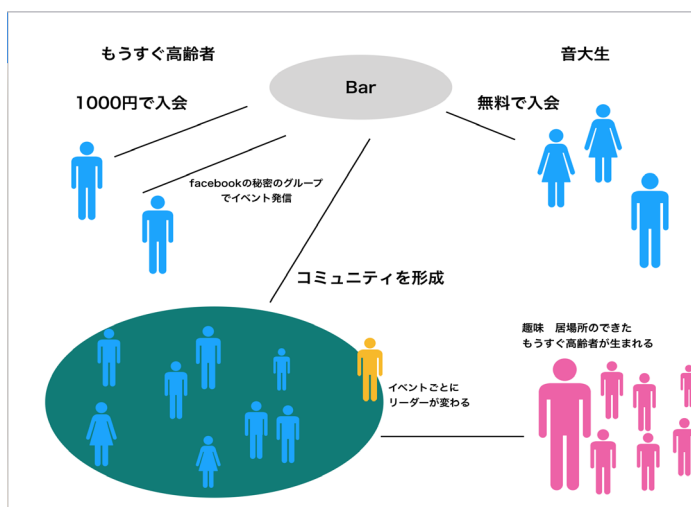
私たちは、高齢者になったとき、地域に自分の居場所がある、仲間がいる「老い活」をできる場が求められると考えています。「老い活」をすることで、高齢者になった時、新しいことを始める場が整い、過ごしやすい町に自分の手で作り変えていけるでしょう。

●実施内容

毎週土曜日のお昼に「とよなか地域創生塾 庄内拠点」で音大生が行う会員制の bar をつくる。

利用料金 1h:2,000 円（初回時に毎年 1,000 円別途必要。）

会員カードを発行して、その際にメールアドレスを使って登録してもらう。そのメールアドレスから各イベントの受付を発信。また、その bar の中で大学生と一緒にしてみたいことを実践。「ご飯」と「講座」でつながる新しいコミュニティを作り、高齢者になった時に、必要とされていると感じ



ることができる趣味や居場所を作り続ける。このコミュニティは学生から「もうすぐ高齢者」の人たち、更には「今すでに高齢者」も含めて幅広い層が参加することを目指し、様々な活動をおこなっていくことになる。

●bar での講座例

1. 音楽部

- ・合唱 声楽科に教えてもらいながら合唱をやっていく。半年ごとに発表会を開催！
- ・打楽器 即興音楽でのリズムのに関して学びながら楽しくセッションする時間にする。
- ・ギター教室 家に眠っているギター、新しく買ったギターでみんなで楽しくセッションしよう！

2. 料理部

- ・うどんうちディスコ！

うどんを踏むタイミングで会場をディスコみたいにしてみんなで踊る、バブル世代の 50 代以上の年齢に向けた企画。当時の華やかに楽しんだことを思い出してもらいながらうどん踏みをする。

有名な曲かつ、華やかな曲をみんなで歌いながら踏むことで、健康体操にもなる！？



- ・庄内の料理人から学ぶ料理教室！

庄内で個人経営をしているお店の人が先生に！ 今からでも遅くない！料理にチャレンジ！！

- ・お酒に合うおつまみ（煮物）作り！

庄内に住んでいる高齢者から、お酒に合うとびっきりのおつまみ（煮物）の作り方を教えてもらいます！自宅で呑む時に自分で作ったおつまみ（煮物）が食べれたら、最高じゃない??

さらに、煮物を煮込んでいる間は交流タイムとし、参加者同士で世間話をしながら過ごしてもらいます！

3. 人生部

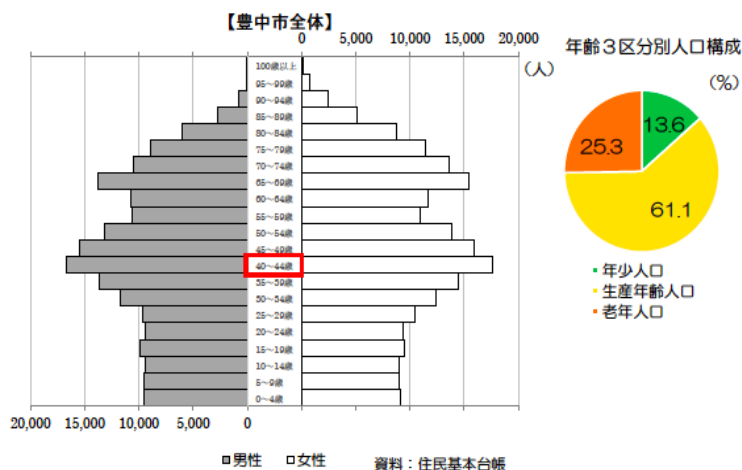
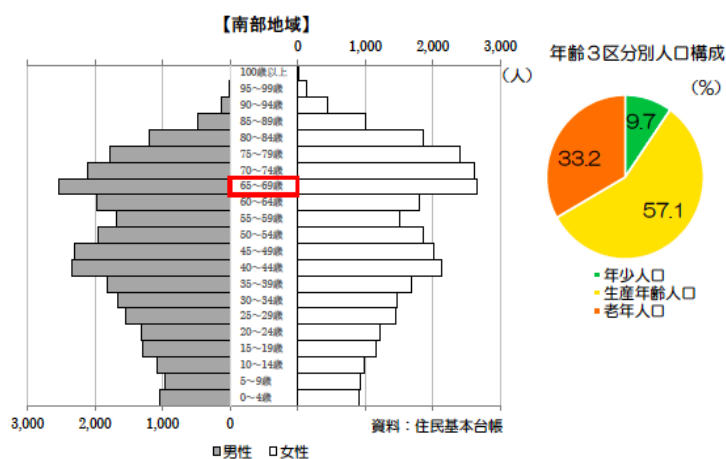
- ・ 高齢者から、そろそろ高齢？という年代の人に向けて、老後の過ごし方を語ってもらいます！
健康的に過ごすには？ 高齢になるとどんなことが起きるの？ その対策方法は？ など
参加者からの相談も交えながら、教えてもらいましょう！ これでみんな老化も怖くない！

(2) アイデアの理由（公開）

このアイデアを提案する理由について、それをサポートするデータを根拠として示しつつ2ページ以内で説明してください。ここではアイデアの必要性、効果を確認します。データとは、統計類の数値データやアンケート・インタビューなどの資料や関連の計画、既存の施策などの定性データのことを総称します。データは出所を明らかにしてください。

平成 30 年（2018 年）1 月に豊中市が出した「豊中市南部地域活性化構想」によると、45 歳から 89 歳までの層の人口が庄内地区（南部地域）には多いことがわかる。このことで危惧されることはこれから高齢者になる 45 歳から 65 歳までの「もうすぐ高齢者世代」が高齢者になった時、地域でコミュニティを持っているかどうかということである。

コミュニティをもっていることで孤立化から救うきっかけになり、退職後のそれぞれのライフプランを充実させていけると考える。



実際に『ヤマハの音楽の街づくりプロジェクト』チーフである佐藤雅樹氏、そしてプロデューサーである増井純子氏に、私達が企画を立てているこの「老い活」についてヒアリングをした。そこで聞いたことは、もしその企画を実行する際になった場合に同世代が集まると意見が合わなくなってしまうとのことだった。

そして、もうすぐ定年退職を迎えることになっている佐藤雅樹氏は、「定年迎えると自分は社会から必要とされなくなる訳だから、この先に自分がどう必要とされるかを考えている。だから、誰かと接点を持ちたいと思っている。」と言っていた。

ここでヒアリングした結果から、コミュニティとしての接点を持つこと、コミュニティを学生からもうすぐ高齢者の人たちまでの幅広い層が参加することを目指す。

(3) アイデア実現までの流れ（公開）

アイデアを実現する主体、アイデアの実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）の大まかな規模とその現実的な調達方

法、アイデアの実現にいたる時間軸を含むプロセス、実現の制度的制約がある場合にはその解決策等、アイデア実現までの大まかな流れについて、2 ページ以内でご記入ください。ここでは実現可能性を確認します。

○アイデアを実現する主体

初年度→ 大阪音楽大学学生およびミュージックコミュニケーションコースの演習授業など

2 年目以降→参加者と音大生が協働で企画を考え、運用していく。

○実現に必要な資源の規模とその調達方法

【ヒト】「老い活」参加者：45 才～65 才の地域在住者（各ワークショップや講座に 15 名程度）

講師： 音楽部→ 大阪音楽大学の学生や教員（様々なジャンルが交わることが望ましい）

料理部→ 食堂や居酒屋などの料理人（地域コミュニティ在住の人）

人生部→ 地域の高齢者でコミュニケーション能力に優れた人

【モノ】

地域住民からの寄付などで賄う。参加者層が比較的経済的な自立をしていると想定して自前で用意する。例えば、音楽部では楽器、料理部では包丁などの道具や食器など。（陶芸など趣味にしている人が参加すればなおよし！）

※自前で用意するということが自分の持っているものを自慢したり、他の参加者のものと比較することなどでお互いのコミュニケーションを図る効果もある。

※楽器の寄付に際しては「フードバンク」などに習って、地域の楽器を集める「楽器バンク」を設立することも考えられる。

【カネ】

基本的には会員制なため、参加者の会費で賄う。主導的な立場で運営する大学生は、参加者（人生の先輩方）の話の聞き役として、ご飯をおごってもらうなどのサバイブ方法を自ら開発することでコミュニケーション能力を磨いていくこととなる。

○実現に至るスケジュール、大まかな流れ

1年目：音大生による「老い活」立ち上げ。

大阪音楽大学が主導で進めることになる。そのため、音大が得意とする音楽をトリガーとして音楽部を始動させ、地域の音楽ファンコミュニティをつくることからスタート。

(プログラムによってその実施回数は異なる。)



2年目：音大生と参加者の協働

その後、これまでの活動のつながりの中から「料理部」や「人生部」の講師を地域の人から探しだし、学生と「老い活」参加者による協働企画をすすめる。



3年目：参加者主導のプロジェクト化へ

「老い活」参加者が主導になって企画を進める。その際、多様な世代が関われるプログラムを意識してつくることにより、趣味や志向をベースにした多層な幅広い地域コミュニティをつくることになる。

特に若い世代の人材を集める際には学生が主導的に動くなど、協働的な体制はそのまま継続していくことが望ましい。



最終ゴールおよび目標

高齢者になったときに介護が必要だったりするときに、ここで作ったコミュニティの人たちが気軽に手助けをできたり、話し相手になったりして孤立化を防ぐ。